

池尻湿原トレイル

さわんど温泉湯の郷公園から歩いて 20 分ほどのところにある池尻湿原は、人里離れた静かな森の散策路の中心地にあります。1.7km のコースは、木陰の森の中をゆるやかに登り、小さな小川の流れに沿って湿原の中心にある池のような場所にたどり着きます。トレイルにはコケやシダが生い茂り、池の中にはミズバショウやミツガシワなどの湿地性植物が生息しています。その英名には彼らの美しさはほめかされていませんが、ミズバショウは炎のような形をした大きな白い花を咲かせ、ミツガシワは繊細な白い星を咲かせます。また、肉食性の丸い葉を持つモウセンゴケも見逃せません。

また、池尻湿原は歴史的にも重要な場所です。鎌倉時代（1185-1333）には、軍都鎌倉と日本各地を結ぶ「鎌倉街道」が整備されていました。さわんど温泉はその街道の中継地点であり、池尻湿原の遊歩道の一部はその街道の歴史的なルートを辿っています。

池尻湿原が歴史に登場するのは、その数世紀後、日本が「戦国時代」と呼ばれる戦乱の時代を迎えたときです。甲斐（現在の山梨県）の武田信玄（1521-1573）と越後（現在の新潟県）の上杉謙信（1530-1578）という 2 人の有名な武将が、何度も軍を交えて戦いました。長い戦いの中で、二人はお互いを尊重するようになり、“甲斐の虎”と“越後の龍”の関係は、文学や映画でもよく取り上げられています。

領主の血戦の間、この森林に覆われた丘や湿地は、武田信玄の軍勢にとって避難場所となっていました。信玄の軍勢は、池尻湿原で馬に水をやり、休息してから次の戦に臨みました。信玄公の砦があった場所は、池尻湿原の遊歩道から湿原の西側の尾根に向かって約 350m 登る短い脇道を通って行くことができます。

車で来られる方は、湯の郷公園から徒歩 20 分のところにある小さな駐車場がある登山口まで、直接車で行くことができます。